

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育クラブゆかり		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		R6年 4月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	R6年 9月 16日		R6年 9月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 10月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	空手に特化した療育で体全体の運動、手足を動かすことで脳の軟化につなげる。 月1回の紅白発表会で保護者、担任の先生の参観があり児童の努力の成果を披露する機会を設けている。 運動のみならず個々の特性に応じた内面の支援に寄り添う配慮をしている。団体活動と個別活動のプログラムを併用し、軽度な発達の遅れを持つ子どもたちの居場所となれるよう工夫している。	月一回子ども相談室を開催し、日常の困り事や友達関係、学校、家庭の事全般について職員とマンツーマンで話し合っている。 転倒の際の衝撃緩衝の為マットを敷き詰めている。	より個別の支援を必要とする児童に対して専門的支援計画を実施する機会を増やし支援の充実を計っている。
	日頃できないような体験を野外活動で取り入れている(いろいろな体験をしてほしい) 実際の店舗で児童たちが注文、レジに並び会計してもらい商品を受け取るリアルお買い物体験で地域資源を活用する体験をしている。	一人一人が輝ける場面を提供できるよう心掛けている。 清潔を保つため施設内で定期的な除菌を行っている。 野外活動でのトイレの際は必ず職員が付いている。	療育上有効であると判断したボードゲームを取り入れ児童の感情コントロールや言葉使いの改善に活かす事を計画している。
3	近所の人と一緒にプランターで季節の花を児童たちの手で植え替えている。 農作物を植え育て、自らの手で成長させていく体験をしてもらい何かを育てる事の喜びを知ってもらう。	月一回施設の前の通路のゴミ拾いを行っている。 児童の安全に配慮し事業所内の柱、その他衝突の危険性がある物を柔らかい緩衝材で覆っている。	外部研修を奨励して職員のスキルアップの機会を設け、内部研修にて他職員への情報共有を行い支援の質の向上を図っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	来所時間が遅い児童に対して支援できる時間が短くなってしまい、通常のプログラムをこなすのが難しい。	利用児童が多い日に送迎の都合で来所時間が遅くなる事がある。	来所時間が遅くなることを見越したプログラムを計画する。 送迎の効率化を図る。
2	地域との連携は少ない	自事業所、施設内で支援を完結させる事が多いため。	地域交流の機会を増やす。 他事業所との情報交換を積極的に行う。
3	事業所と利用者家族間の連携は行えているが利用者家族同士の情報交換、共有は行われていない。	利用者家族に忙しい方が多く事業所側で家族間の交流の場をセッティングするのが難しい。	利用者家族が参加できる行事等への参加を推奨する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	運動療育クラブゆかり
------	------------

公表日 年月日

利用児童数 30名

回収数 23

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	2				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	3				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23					
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。						
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	22	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	23					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	2				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育クラブゆかり		公表日		年 月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・1階に訓練室、2階に独立した勉強部屋と相談部屋、静養室、第2訓練室を設置しています。 ・密にならないよう1階と2階を適宜使用しています。	・階段の昇降時に横並びで二人以上同時に使用するとスペースが狭くなるため一人ずつの昇降を推奨しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・より良い支援のため基準人員以外の人員を配置しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	・色分け、文字の配置により確認しやすい室内環境になっています。 ・手すりの設置、ドアの配置の最小限化により移動のしやすい室内環境にしています。	・階段の段差がやや高く手すりの設置等で対応しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・清掃を欠かさず清潔を保つための除菌を定期的に行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・二階に独立した相談部屋等を配置して個別の場所を使用する事が可能になっています。 ・個別の場所を使いながらかつめ切られた環境が苦手な児童のため部屋をカーテンで区切る事ができるようにしています。	・個別の場所に入ってこようとする児童がいるため注意を必要としています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・定期的にミーティングを行い目標を設定、明確化し職員に周知を行っています。 ・目標の評価をしそれを元に改善、計画の再設定を行っています。	・細かい修正の対応に時間を必要とする場合があります。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・保護者様に評価シートを配布し、ご意見を募っています。 ・面談、連絡を通して保護者様のご意向を確認し、業務、対応等の改善に活かしています。	・保護者様の負担が増え過ぎないように意見、評価調査の更なる効率化を図っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・定期的にミーティングを行い意見を求めています。 ・ミーティング参加が難しい非常勤職員からも意見を求められるよう議事録等資料確認を簡単に出来るようにしています。	・ミーティング参加が難しい職員がいるためミーティング時間帯、時期の変更を検討しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		・第三者による外部評価は現在行われていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・研修を奨励し、事業所で受講の費用等を負担しています。 ・研修の機会が多い職員の通常業務をサポートしています。	・法人内での研修機会は少数であり、外部での研修をメインとしています。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		・現在作成中であり公開の準備を進めています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・一カ月～二カ月のスパンで児童へのアセスメントを行っています。 ・アセスメントの内容を反映し、保護者に意見を求めた計画の作成を行っています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・計画作成時に各職員から会議で意見を求め、適切な計画の作成に活かしています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・常に最新の計画を簡単に確認できるよう電子端末で計画を確認できるようにしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・児童の情報、状況を総合支援サービスを導入して簡潔に把握できるようにしています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・保護者との面談だけでなく児童との面談も定期的に行い計画の作成に活かしています。	・五領域、家族支援移行支援等を含む必要を認識しておらずそれらが含まれていない計画を数件作成してしまいました。 気づいて時点で修正した計画を作成して保護者に再度計画の確認、サインを頂いています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・不在だった職員にもメモを通して意見を求めています。	・一部非常勤職員は時間が取れず立案に参加できていない場合があります。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・プログラムの見直しを行う際、保護者・児童の意見を参考にしています。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・児童に合った支援が行えるよう人員を基準から増員して対応しています。 ・個別のマンツーマンでの支援を要する児童に対しては専門的支援計画で対応しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・朝礼の時間を取り、その日の段取りや情報の共有を行っています。	・勤務開始からすぐに送迎に向かわなければならない場合があります。 その際は休憩時間等に情報共有を行っています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・送迎等が終わってから全員が集まりその日の特筆すべき事柄等について話し合っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・毎日業務日誌を作成していつでも見返せる形にしています。 ・職員間で情報の共有を行える記録一覧を作成しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・モニタリング時に速やかな情報共有が行えるよう支援ツールを使用しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1	・多様な遊びや体験活動とこどもが主体的に参加できる活動を連携し、こども自身の自主性を尊重した活動の支援に取り組んでいます。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・自己決定に必要な主体性を養うために自らで何かを選ぶ機会を多くしていきます。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・個別支援計画等の資料を読み込み日々の支援の機会の多い職員を参画させています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・関係機関の会議に積極的に参加しています。	・地域交流の機会は限られています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・学校、保護者と密にやり取りをし情報交換を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			・現在就学前の児童の在籍していた機関との連携は行っていません。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6			・別のデイ等との交流は現在行っていません。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・送迎時等に情報交換を行っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4		・利用児童の家族向けの研修は現在行っていません。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・入所の際に資料を渡し口頭での説明を行っています。 ・様々な事情を抱えた方のために、文字を拡大した資料、ルビを振った資料等を用意しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・保護者との面談、保護者による計画の確認を行いより良い支援の提供に活かしています。 ・定期的に児童と面談する機会を設けて支援の方向性の決定に役立っています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・原案を作成した後計画の説明を行って同意を得ています。	・個別支援計画会議に保護者は同席していません。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・家族支援の観点から必要に応じて面談等を行いご家族の負担の軽減に努めています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			・担当者を決め、苦情が入った際の素早い対応ができるようにしています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1		・アプリ・サイトを使用し活動記録等の発信を行っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			・重要書類は棚に鍵をかけて保管しています。 ・必要でない個人情報の共有は行わないようにしています。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			・それぞれの児童の特性を考慮した対応を心掛けています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		・調理実習等の際に近隣住民に食事を振る舞うなどしています。 ・近隣の方々が目を楽しめるよう花壇の設置を行っています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			・マニュアルの整理、見直しを定期的に行い職員が把握しやすい環境を整えています。 ・保護者が気軽に確認できるようにHPにマニュアル等を設置しています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			・訓練の内容等が固定化しないように心掛けています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			・児童毎の症状、服薬の状態等の情報を見やすい形にして整理しています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			・アレルギー-症状の情報を見やすい形にして整理しています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			・外部研修を奨励しそこで得たものを事業所内研修に活かしています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			・安全計画を保護者がいつでも確認できるようにHPに掲載しています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			・ヒヤリハットを不在だった職員にも確認してもらい情報の共有を行っています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1		・外部の研修にも参加して内部で共有するための情報を集めています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			・身体拘束を行う可能性が高い利用児童の保護者に対してはより詳細な内容を伝えています。	